

「新しい時代の贈り物」

新しい時代の「贈り物」はいつもわたくし達の気づかぬうちに戸口にそっとおかれていくのではないかと感じます。ドラッカーの著書「ネクストソサエティ」によると世界最初の経営セミナーは 1882 年ドイツの郵政庁によって企画されたもので、企業のトップを対象とした「電話を恐れぬ方法」というものでした。驚いたことに「電話は事務員が使うべきものだ」という理由で招待を受けた人々を怒らせてしまい、参加者はゼロであったという事です。「電話を恐れぬセミナー」から 1 世紀余り過ぎた現在では、電話の存在価値を疑う人もなく、今のわたくし達にとって微笑ましいエピソードとなりました。

今から 8 年前私が「インターネットセミナー」をつくばで企画した時は、わずか 30 名の参加者を募る事さえたいへんな事でした。先端科学の街、つくばといえどもその頃、電子メールアドレスを名刺に載せている人はごく限られた人達だけでした。インターネット上の巨大仮想商店街の“楽天”も検索ソフトの“グーグル”も生まれていない時代だったので。当時のセミナーはホワイトハウス、首相官邸と次々と説明をしながらのネットサーフィンでした。そして表示するための待ち時間の長さと同線の不安定な状況は綱渡りセミナーと呼びたいほどのものでした。しかも終わってからの場の雰囲気は「なんだかよくわからない！」というすっきりしない空気に包まれており、私にとって意気消沈した企画であったことが今では懐かしく思い出されます。

このように近年になって私たちの目の前に登場したインターネットですが、世界の利用人口はその後急激な勢いで増え約 6 億人と言われています。現在ビジネスの世界でメールのアドレスを持たない人を探すことは難しいことですし、すでに企業活動において IT は不可欠な存在となりました。日本は速い回線と安い料金で、今や世界で最高レベルの IT 環境を誇る国となったのです。

しかし一方ではこのようなあまりにも急激な技術の発展は、高齢者を始めとする多くの人々に恩恵よりも不安感を与え、時代に取り残されるような焦燥感や疎外感をもたらしている事も事実です。全ての人に等しく新しい時代の「贈り物」が行き渡り、社会と馴染みそして生活と調和するまでにはもう少しゆるやかな時の流れが必要なのかもしれません。しかし、私はあえてこの“急激な変化”こそが新しい時代精神を生み出すための原動力となり「贈り物」を早く受け取るための絶好の機会になりえると捉えています。なぜならこの「贈り物」こそかつてのような便利さを追求し成長、拡大を志向させるものとは異なる人間本来の存在に立ち戻るためにそっと戸口におかれたものではないかと思っているからです。つまりこれまで社会的弱者と言われていた人々に温かな光をあてながら、個人の資質を高め、その存在をより確実にする力を秘めているのです。すでにパソコンやデジタル

機器の開発は、障害のある人々が自立的に社会参画し仕事を得る道を拓き始めています。電子メールや携帯電話はお年寄りに安全や人とのふれあいをもたらすコミュニケーション機会を増やしました。また時間と空間を意識しない環境はこれまで家事や育児のもと十分な社会活動が制約されていた女性たちに、自己実現と多様な働き方のチャンスをもたらしています。このようにIT社会は多様な人々に温度差を生じさせながらも、大勢としては新しい秩序や新機軸の新風を巻き込みながら社会を進化させていくものと思われます。その時初めて「贈り物」の真の力が発揮されて実像が徐々に現れてくるのではないかと思います。幸運にも私たちはIT時代に遭遇しこの「贈り物」を手にすることができました。未来の人々にも評価されるような、知的で健全な時代精神を育むことが今を生きる私たちに求められていることではないでしょうか。

速水智子